

穴喰小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎・基本を身につけ、自己を表現できる児童の育成  
(国語・算数の授業改善・授業力の向上)
- ②主体的に学ぼうとする児童の育成  
(家庭学習の質の向上・特別活動の主体的な取組の発展)

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 片岡 誠治	委員 校長：竹島 稔 教頭：藤崎 知幸 研修主任：山下 智恵美 特別支援教育コーディネーター：森 三栄 主幹教諭：尾崎 啓明 助教員：三浦 智佳子
------------------	---

校長

竹島 稔



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字や計算など基本的な力の向上に成果が見られた。 ○算数が好き、またはわかると答えた児童が9割いる。 ○学習中に自分の考えを発言することができたと考えられる児童が8割程度いる。 ●文章問題や、計算が遅く、算数に対して苦手意識を持つ児童がいる。 ●学力の学年差、個人差が大きい。学年相応の語彙の習得ができていない児童が多い。 ●既習の漢字が使えていない児童がいる。	国：学習した漢字や言葉を覚え、文章表現に生かすことができる。言葉のまとまりをとらえ、正しく読むことができる。 算：数量や図形に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身につけている。	国：学習した漢字や言葉が使われている文章などの視写を継続して行う。授業の中での音読を大切に、言葉のまとまりがとらえられるよう教師が範読する。言葉のまとまりごとに線で区切ってから、読んだり書いたりするように習慣づける。 算：知識テスト、計算力テスト等で児童の実態を知り、効果的に活用する。前学年の復習もする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ホワイトボードの活用やペア、グループ学習など授業形態の工夫により、表現し交流する学習に慣れ、自ら考えようとする態度が育ってきつつある。 ○本に親しむ児童は増えてきている。 ●自身の考えの根拠を表現し、説明することに苦手意識を感じている児童がいる。 ●国語の読解力が十分育っていない児童がいる。	国：文章を読んだり、相手の話を聞いたりして内容を正しく理解し、自分の考えを表現することができる。 算：発達段階に応じて、数学的な表現を用いて事象を簡単、明瞭、的確に表現し、友達と交流し、自分なりの考えをもつことができる。	国：授業の中で、他者の発言内容について再度説明させる機会を積極的に設ける。 算：自力解決の場や練り上げの場の確保を図り、充実に努める。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中に、友達との話し合いに積極的に取り組むことができる児童が多い。 ○9割を超える児童が、毎日の宿題は必ずしている。 ○自主学習が「できた」「ほぼできた」児童が8割を超えている。 ●自主学習はできているが、内容や学習時間に個人差が大きい。(自分の実態や目標に合っていない等) ●就寝時刻やゲーム・インターネットに費やす時間等、基本的な生活習慣の見直し。	・学習活動に主体的に取り組む、めあての振り返りまできちんとできる。 ・話し合い活動中での「キャッチボールタイム」等を他の学習や生活でも用い、発展させることができる。 ・ゲームやインターネットの使用は学習後にし、十分な自主学習や睡眠時間を確保することができる。	・休校中の生活の様子を把握し、課題を見つける。 ・「主体的に学ぶ児童の姿」を見直し、授業に生かす。 ・「家庭学習の手引き」を見直し、配付する。 ・「自主学習」の実践例を作成する。 ・家庭での時間の使い方について実態を把握し、ゲームやインターネットの使用について家庭できまりを作る等、保護者への啓発を図る。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

